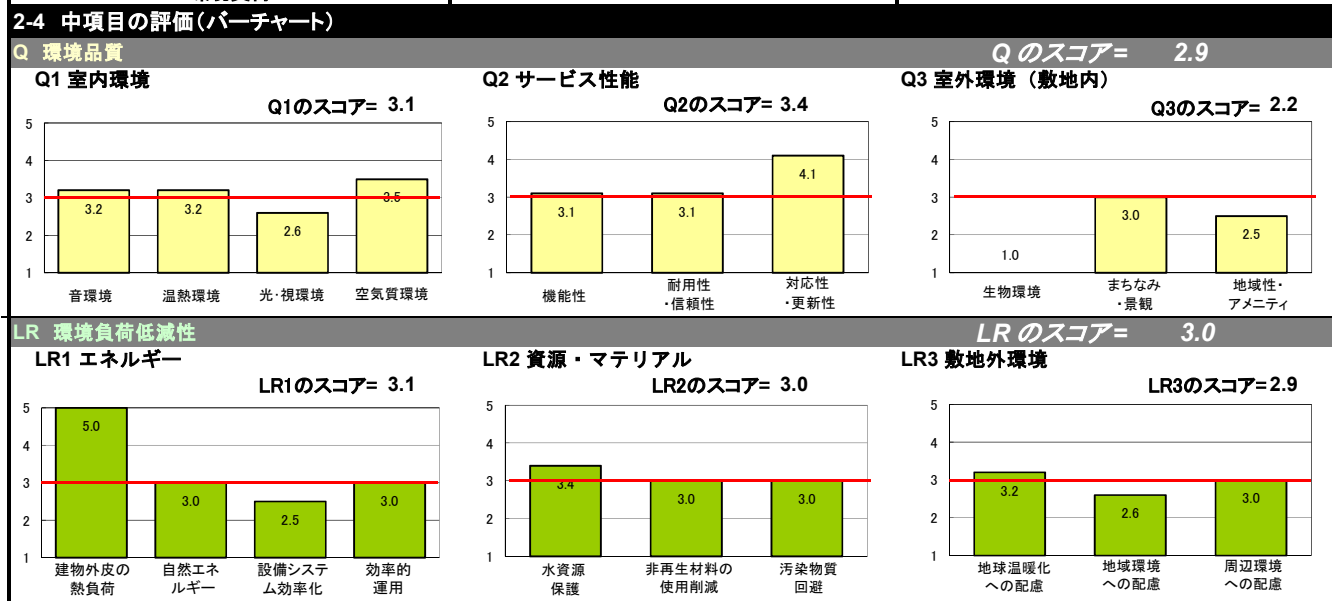
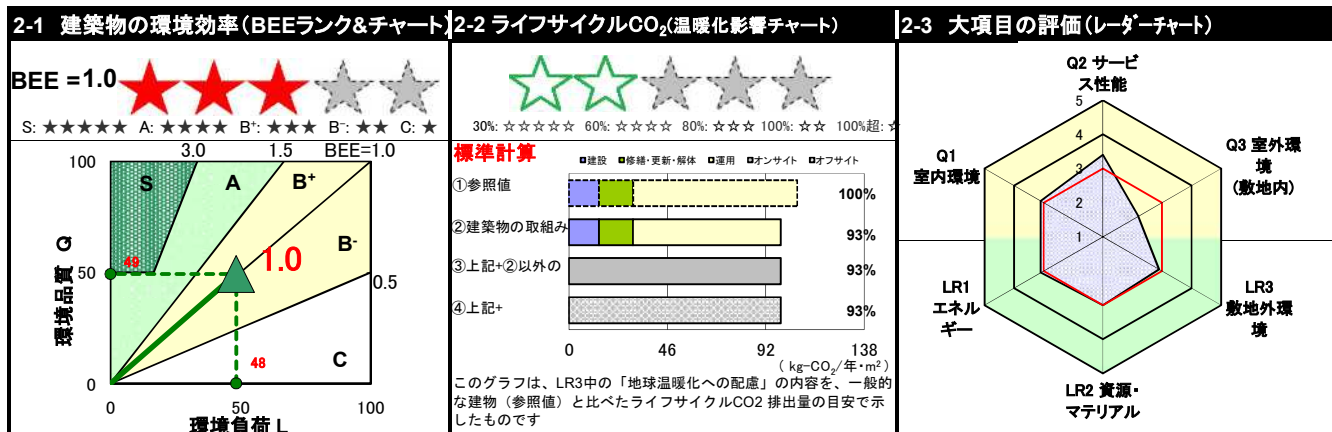


## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21002

建築物名称	味の素ファインテクノ株式会社新実験棟建設工事
建築主	味の素ファインテクノ株式会社 代表取締役社長 中村 茂雄
建築物の所在地	川崎市川崎区鈴木町13-11
設計者氏名、建築士事務所名	山本 浩平 味の素エンジニアリング株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,016.59m <sup>2</sup>
用途	事務所(実験施設)
構造	鉄骨造
階数	地上4階
工事完了予定年月	令和4年6月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	味の素ファインテクノ株式会社 新実験棟建設工事	階数	地上4F
建設地	川崎市川崎区鈴木町13-11	構造	S造
用途地域	工業地域・法22条による地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,952時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年6月23日
敷地面積	16,511 m <sup>2</sup>	作成者	山本 浩平
建築面積	656 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,017 m <sup>2</sup>	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.1</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.6</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	良質な日射遮蔽性能および断熱性能を計画	0.5/0.7	3.6
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.7		
2 自然エネルギーの利用		3.2/5.0	3.2
3 設備システムの高効率化	BEI=0.9		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	省水型機器採用		
2 非再生性資源の使用量削減	各部に資源使用量削減の取組み実施	2.9/4.7	3.1
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.3</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	各部更新必要間隔を大きくする取組み実施	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	省水型機器採用	2.5/4.0	3.1
2 非再生性資源の使用量削減	各部に資源使用量削減の取組み実施		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	交通負荷抑制のために必要なスペースを確保	0.3/0.4	3.9
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.2</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.7		
2 自然エネルギーの利用		3.2/5.0	3.2
3 設備システムの高効率化	BEI=0.9		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.7		
2 自然エネルギーの利用		3.2/5.0	3.2
3 設備システムの高効率化	BEI=0.9		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数						
	G	W	R	H											
<b>Q 建築物の環境品質</b>										2.9					
<b>Q1 室内環境</b>										3.1					
<b>1 音環境</b>										3.2					
1.1 室内騒音レベル										3.0	0.40	-	-	3.2	
1.2 遮音										3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能										3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能										3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	-	-	-		
1.3 吸音										4.0	0.20	-	-		
床:タイルカーペット 天井:化粧岩綿吸音板															
<b>2 温熱環境</b>										3.2	0.35	-	-		3.2
2.1 室温制御										3.5	0.50	-	-		3.2
1 室温										3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能										5.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性										3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御										3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式										3.0	0.30	-	-		
省エネ計算書より 窓システムSC:0.191、U=2.72(W/m <sup>2</sup> K) 外壁その他:U=0.81(W/m <sup>2</sup> K)															
<b>3 光・視環境</b>										2.6	0.25	-	-	2.6	
3.1 昼光利用										1.8	0.30	-	-	2.6	
1 昼光率										1.0	0.60	-	-		
2 方位別開口										-	-	-	-		
3 昼光利用設備										3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策										3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御										3.0	1.00	-	-		
3.3 照度										3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御										3.0	0.25	1.0	-		
<b>4 空気質環境</b>										3.5	0.25	-	-	3.5	
4.1 発生源対策										4.0	0.50	-	-	3.5	
1 化学汚染物質										4.0	1.00	-	-		
4.2 換気										3.0	0.30	-	-		
1 換気量										3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能										3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮										3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理										3.0	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視										3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御										3.0	0.50	-	-		
F☆☆☆☆を使用															

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.4	
<b>1 機能性</b>					<b>3.1</b>	0.40	-	-	<b>3.1</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>					<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	広さ・収納性				3.0	0.33	-	-	
2	高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-	
3	バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>					<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1	広さ感・景観			事務室の天井高 3.0m	5.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	
3	内装計画				1.0	0.33	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>					<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計			内壁、床、外装各部に防汚性の高い建材を採用 床は洗浄にも配慮した設計を採用 風除室について、1次扉、2次扉とも自動扉で離隔2m程度確保 外部露出する金属について、メッキ塗装により防錆対策を実施	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>					<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>					<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		床: タイルカーペット 20年 壁: 無石棉化粧ケイカル板 30年 天井: 化粧岩綿吸音板 30年 換気ダクト厨房排気系統へステンレス鋼板使用	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			4.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		給水: 水道配管用ポリエチレン管 B 給湯: 水道用ステンレス鋼管 C 雑排水: 硬質塩化ビニル管 B	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>					<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			空調機・外調機を系統区分 吊配管採用	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>					<b>4.1</b>	0.30	-	-	<b>4.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			階高 4.7m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.20	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>					<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			屋上にバックアップスペース確保	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.30	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W			H	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G					<b>3.0</b>
									公共空間からほとんど見えない
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>									<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>									<b>3.0</b>
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W			H	<b>2.0</b>

